

越前おおの型 食・農業・農村ビジョン（案）に係るパブリックコメントの結果について

1 パブリックコメントの実施状況

- (1) 案件名 越前おおの型 食・農業・農村ビジョン（案）について
 (2) 募集期間 令和4年1月27日（木）から2月10日（木）までの15日間
 (3) 意見提出状況 提出意見：9件、提出者：3人、提出方法：書面2件・電子メール1件

2 意見の概要とその意見に対する市の考え方

No	意見の概要	回答（市の考え方）	修正箇所
1	<p>本文 29 頁</p> <p>④農山村保全管理の促進</p> <p>農地の集約集積を図ると小規模農業者は耕作しないことにより田んぼの管理意識が薄れ、一方大規模農業者は、耕作を担うも除草剤の多用により畔が荒れ、農地以外の水路や道路の土手の除草にまで手が回らず、結局、農地、農村が荒れることになるという矛盾が生じる。</p> <p>これを防ぐには、農地の所有者が責任をもって保全管理する責任があること、個人では負いきれなければ地域単位で、あるいは大野市も当事者となって、農地や農地周辺環境の保全管理に努める必要がある。</p> <p>この観点で戦略をまとめる必要がある。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>少子化や高齢化の急速な進行と若年層の農業や農山村に対する意識の低下で、集落活動の維持が難しくなっています。</p> <p>大野市としては、多面的機能支払制度や中山間地域等直接支払制度などの各種支援制度を活用し、地域ぐるみで行う農地や農地周辺環境の保全管理活動を支援していきます。</p>	なし

2	<p>本文 29 頁</p> <p>⑤地域全体で取り組む鳥獣害対策の推進</p> <p>地域全体で取り組むという方針はとても良い。</p> <p>地域に限らず市民全体で取り組む次元の問題であり、市民が広く意識醸成するようにアピールしていくべき。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>市民全体が鳥獣害への理解を深めるためには、地域ぐるみで自主的に取り組む体制を構築し、連携した鳥獣害対策を進めることが重要です。</p> <p>このため、福井県と大野市が合同で、大野市内の地域関係者を対象とした鳥獣害対策研修会や現地指導を開催し、鳥獣に対する意識を醸成していきます。</p> <p>中山間地域の人口減少や高齢化が進み、個々の地域で対策を実施していくことが困難となってきたため、他の地域（集落）と連携し、将来にわたり地域全体で防止対策に取り組む体制の合意形成を図り、「みんなで守る農山村」の意識醸成を、農村分野での主な取り組みとして実施していきます。</p>	なし
3	<p>本文 34 頁 17 行目</p> <p>農産物の地産地消についての意見です。</p> <p>学校給食については、各市町で施策を決められると伺っております。全国には、学校給食を米飯給食のみに切り替えている市町が多くあると聞いております。</p> <p>大野市の主要農産物は、言うまでもなく米です。しかも福井県内でも大野市産のお米はおいしいことで有名であり、市内のスーパーでは他の市町産よりも高値で販売されています。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>大野市の学校給食では、米飯給食を週に 4 回、パン給食を週に 1 回実施し、更に米飯給食に使用する米を全て大野産米にしています。</p> <p>全国には全て米飯給食としている自治体もあることは把握していますが、給食を通して多様な食材に触れ、おいしさの秘密を知ること、生涯にわたり自分の健康のために自らが食べ物を選ぶ力を育むことも、食育活動の一つであると考えています。</p>	なし

	<p>このおいしいお米を次代を担う子供たちに食べてもらうことで、大野市産のお米に対する愛着意識を持ってもらうためにも、学校給食におけるパン給食をすべて廃止し、すべて米飯給食に切り替えることを目指すべきだと考えています。</p> <p>ぜひ、100%米飯給食を目標に加えていただきたいと思います。</p>	<p>学校給食におけるパン給食を廃止し、全て米飯給食に切り替えることは、今のところ考えていませんが、今後も週4回の米飯給食の際には、大野産のおいしいお米を提供していきます。</p>	
4	<p>この（案）をザーと読んだだけでは、十分な理解は得られなかった。</p> <p>また、委員の中に農業との関わり合いのない人が2、3見受けられて残念。</p> <p>この委員会の議事録の提出を求める。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>今回の改訂では、「越前おおの型 食・農業・農村ビジョン」と「越前おおの食育推進計画」を統合しました。</p> <p>このビジョンの改訂を広くご検討いただくため、「越前おおの型 食・農業・農村ビジョン推進委員会」は、①農業者②消費者③食育活動実践者④関係機関・団体等⑤有識者⑥市職員で構成しています。</p> <p>議事録につきましては、議事録に代わるものとして会議記録を市ホームページに掲載し、お知らせしています。</p>	なし
5	<p>「越前おおの型農業」とは？</p> <p>2頁の末の「結の心」とは</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>「越前おおの型農業」は、大野市独自の農業の取</p>	なし

	<p>「結」とは、一時の人手が足りないとき、農家の方々が互いに助け合ったことをいうのだが、今、農作業で人手が足りないことがあるのか？</p> <p>よって「結の心」とは、今の農業では必要なくなっている。</p> <p>ましてや、農業を職業選択の一つとすればなおさらである。</p>	<p>り組みで、大野市の豊かな農地や自然環境などのさまざまな資源と、それらを生かし育まれた農林水産物を、大野市の多様な担い手が、助け合い、支え合い、思いやる「結の心」で守り育てながら進める農業としています。</p> <p>本ビジョン改訂に当たり、担い手農家（集落営農、法人含む）を対象にアンケート調査を実施しました。</p> <p>農業経営の課題や不安への設問で、「労働力（人材）が不足している。」の項目を選んだ個人や会社法人の担い手は40.6%、集落営農組織は、50.0%でした。</p> <p>「草刈り作業や水路管理など管理作業に係る負担の増加」の項目を選んだ個人や会社法人の担い手は87.5%、集落営農組織は、55.6%でした。</p> <p>このように多くの担い手が選択しており、人手が足りないと感じていることが伺えます。</p> <p>農業への関わり方の一つとして、大規模農家などによる雇用もありますが、中小規模農業の取り組みや集落営農組織を次世代に残すためには、「結の心」を広げていくことが必要だと考えています。</p>	
6	<p>「多様な担い手」について具体的な記述がない。</p> <p>7 頁</p>	<p>ご指摘の二点について、次のように記述を修正します。</p>	

<p>「農業者の高齢化が進むと懸念されている」との懸念の表現がおかしい。(当然のことであるため)</p>	<p>一点目 【修正後】 2 頁下段《越前おおの型農業とは》の囲いの下 「※多様な担い手とは、若者、女性、高齢者や農家、非農家を問わず、営農や農村の維持に関わる全ての方を想定しています。」を追加。</p> <p>二点目 【修正前】 7 頁 項目（3）農家戸数と農業者数の 3 行目 「また、農業就業人口の高齢比率は 16.9 ポイント増加しました。男女比率は、平成 27 年と比較すると逆転し、女性比率が少なくなりました（表 7）。 小規模農業や家族農業において女性の離農が増加しており、その分、65 歳以上の男性比率が増加しています。大野市人口ビジョンによると、令和 27 年（2045 年）には 65 歳以上の老年人口の割合が 43.7%になると予測され、今後も農業者の高齢化が進むと懸念されます。」</p> <p>【修正後】 「農業就業人口の男女比率は、平成 27 年と比較すると逆転し、女性比率が少なくなりました（表 7）。特に、小規模農業や家族農業において女性の離農が増加しています。」</p>	<p>あり</p>
--	--	-----------

		また、高齢比率は11.6ポイント増加しました。」	
7	<p>「多面的機能支払制度」は、個々の集落ではなく、土地改良区が担っているのでは？</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>「多面的機能支払制度」は、地域住民等が共働で行う、農業・農村の有する多面的機能を支える活動や農地、水路、農道等の保全管理を図る活動を支援する施策です。</p> <p>大野市では、事務を土地改良区が行っている集落も一部ありますが、活動はそれぞれの集落で行っています。</p>	なし
8	<p>5 頁 今日、認定農業者も後継者なく経済的に苦しくなっている状況が見受けられる。</p> <p>6 頁 農地集積と小規模農業との兼合いから逃げている。食料需給率の向上を図るためにも、小規模農家も含めた適切な補助制度が必要である。</p> <p>小規模農業への対応の仕方をもって、このビジョンの意義が出てくる。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>大野市では、農業施策の課題と位置付け、認定農業者を含めた地域を支える担い手が、安定した農業経営ができるよう支援する取り組みとして、①農業者の経営改善や経営規模拡大への支援②農地の集積集約による生産効率の向上への支援③集落営農組織への支援④畜産農家への支援に取り組めます。</p> <p>また、小規模農業についても、大規模農業に対する支援とともに、栽培技術の継承や作業の軽減を図る農業用機械の導入への支援、農作物の出荷数量に応じた助成、産地交付金による作付面積に応じた支援を行います。</p> <p>また、若者、女性、高齢者や農家、非農家を問わ</p>	なし

		ず、農業体験や栽培講座など誰もが農業に取り組む機会を創出し、新たな生産者を確保する取り組みを行い、引き続き生産者への支援を実施していきます。	
9	この（案）は、あちこちから資料を取り寄せて書いただけだ。 なぜ今「ビジョン」を書かなければならないか。	ご意見ありがとうございます。 現在の「越前おおの型 食・農業・農村ビジョン」は、計画期間を平成29年度から令和3年度までとしています。 今回の改訂は、令和4年度から新たな5年間の計画として、これまでのビジョンの施策の推進による成果の検証や主な取り組みの評価を行い改訂します。	なし